

いちばん小さな海 “タイドプール”

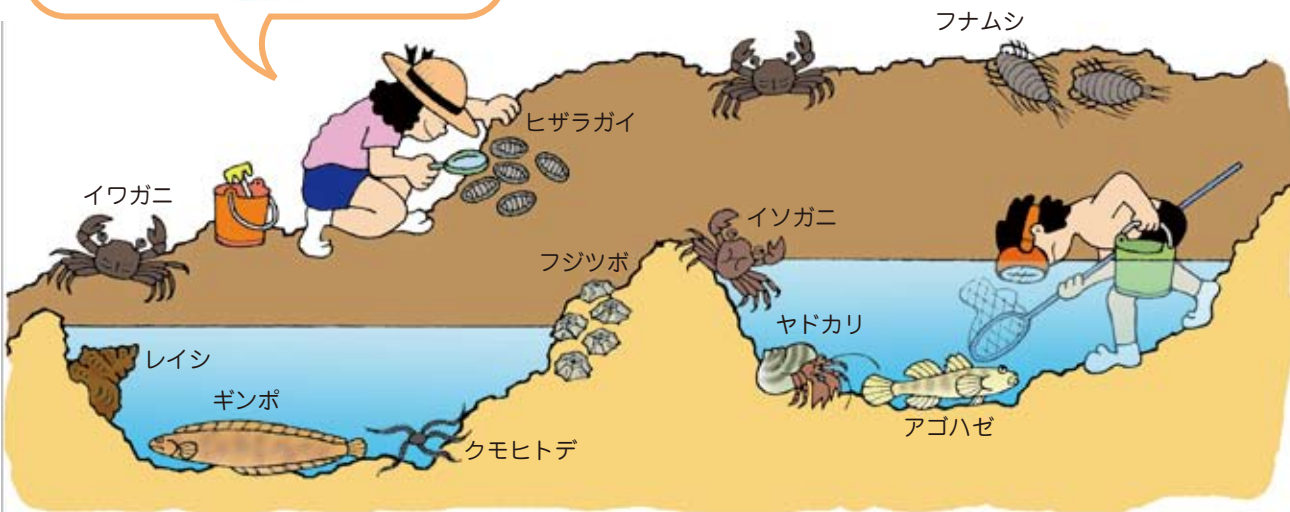
海の中には、人の目には見えないほど小さいプランクトンから、体の長さ30メートル、重さが150トンもあるシロナガスクジラまで、ものすごく

たくさんの生物がすんでいます。また、潮(しお)がひくと干(ひ)がたとなってほしあがってしまうところにすんでいる生物もいれば、なんと1万メートルもの海底にすんでいる生物もいる。

ひき潮のとき、磯(いそ)の岩のあいだに海水がとりのこされた潮だまりをタイドプールとよぶが、海水といっしょに小さな魚たちもとり残されていて、よく観察してみるととてもおもしろい。ヒザぐらいの深さの海で、いろんな魚の子どもを見つけることができるので、みつけたら図鑑(ずかん)でしらべてみよう。魚だけでなく、ヤドカリやカニやウニなどもみつけられるが、カニもウニもたくさんの種類があることに気づくだろう。

●石をひっくり返す

持ち上げられそうな石があったら、ヨイショッとひっくり返してみよう。裏側に、どんな生き物が張(は)りついているかは、見てのお楽しみ!!



●潮(しお)だまりの 観察ファッション&グッズ

危険(きけん)をさけて楽しく観察するために、服装(ふくそう)をばっちりキメていこう。

●軍手

手をケガしないために必要だよ。

●ぼうし

強い日差しをよけるため。

●服

シャツに半ズボンか水着がいいね。

●すべらないくつ
サンダルやはだしはダメだよ。



●ホースの使い方

まずホースを潮(しお)だまりに沈(しず)めよう。ホースに水が通ったら、一方のはしを潮だまりより低い位置におろせば、自然に水がぬけるよ。



観察のあとは、潮だまりにまた水をいれてあげようね。

●観察の時間と気をつけること

1. 潮(しお)だまりの観察は、潮がひきはじめてから満ちるまでの、干潮(かんちょう)の前後3時間がベストタイム! 干潮の時間は、新聞やつり具店で買える「潮時表(ちょうじひょう)」で調べられるよ。
2. 観察は、かならず大人といっしょに行こう。どんな浅い場所でも、水のそばには危険(きけん)があるということを、わすれないでね。

